



## 子どもとのかかわりの中で

校長 菊池 修

先日「子どもとのかかわり方」について、ある研修会で講師の先生からお話を聞きました。子どもの様々な行動の中で、気になることがあるが、周りの大人とのかかわり方が関係しているかもしれないということがよくある。というお話でした。お話の中では、

- ① 相手の話を落ち着いて聞くことができない子  
→周囲の大人がゆっくりと話を聞いてくれないことが多いかもしれない。
- ② 自分に自信がない、自分を好きでない子  
→周囲の大人に褒められたり、認められたりすることが少ないかもしれない。
- ③ 基本的な生活習慣が身に付いていない子  
→周囲の大人が子ども自身に判断させずに、手を出しすぎているのかもしれない。
- ④ 友達に対して思い込みが激しい、きれやすい子  
→周囲の大人が行為の結果だけを見て、瞬時に怒鳴ったり叱ったりすることが多いのかもしれない。
- ⑤ 自分が今何をすべきなのかを考えられない子  
→周囲の大人が「これからどうするか」を子どもに考えさせたり、問いかけたりする機会が少ないのかもしれない。
- ⑥ 相手への思いやりに欠ける子  
→周囲の大人が「なぜそうしたのか」という、子どもの内なる思いや考えを尋ねる機会が少ないのかもしれない。
- ⑦ 失敗を恐れて躊躇する子  
→周囲の大人に頭ごなしに叱られることがあるかもしれない。
- ⑧ 都合が悪くなると嘘をつく子  
→周囲の大人が子どものペースで話せるようにしないため、大人の都合に合わせて顔色をうかがいながら言うことが多いかもしれない。

という子どものパターンとよく考えられる背景について挙げられました。私達教員も、子どもとのかかわりの中で気を付けなければならないことがあると痛感しました。子どもへの接し方として勉強になりました。

子どもたちは様々な顔をもっています。クラスのみなでいる時の顔、仲のいい友達といる時の顔、家の人と一緒にいる時の顔、先生と接する時の顔、一人でいる時の顔。それぞれ違う顔になります。考えることも少しずつ違うかもしれません。がんばりやさん、さみしがりやさん、あまえんぼさん、いばりんぼさん。同じ子でも様々な顔があります。子どもの様々な顔にはそれぞれ意味がありますから、大人はその様々な顔を受け止めてあげることが大切です。そして、その時々で一番良いと考えられるかかわり方を探っていきたいものです。